

頭頸部がんCR率63%

放射線併用動注療法

第十八回日本口腔・咽頭科学会総会(会長・原淵 保明旭医大耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授)が、
旭川市で開かれ、旭医大耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の荻野武助手が頭頸部がんへの「放射線同時併用超選択的動注化学療法」を紹介。CR(完全寛解)率六三%で手術と同等の成績、安全性を示すことも、治療適応例見極めへPS3とVEGF発現チエックが有効とする研究成果を報告した。

手術同等の安全性

旭医大耳鼻科 PS3等発現チエックを

口腔・咽頭科学会

シンポジウム「口腔・咽管から、抗がん剤(CDDP)頭癌診療の最前線」で荻野助手は、同療法対象患者は手術不能例が原則だが、最近は手術可能進行がん例にも拡大と説明。手術と比べ発声や嚥下機能を維持できるものの、治療期間が三ヶ月と長い。

治療方法は腫瘍の栄養血
PR 含め89%に治療成果
確認を報告した荻野助手

均動注回数四・八回。

七症例は、T4が十八例、T3三例、T2六例。平均年齢は六四歳(四二―八一歳)。平均動注回数四・八回。

CRは十七例でPR(部分寛解)七例を含め八九%以上、VEGFは四〇%以上に治療成果がみられたが、経過観察における原病死六例のうち遠隔転移三例を課題に挙げた。

一方、治療前の効果予測研究では、T4二十二例中、腫瘍細胞内PS3は一〇%以上、VEGFは四〇%以上に発現するとCR例が有意に減少。これらの因子は化学療法、放射線治療への感受性に関与し、「発現が多いと治療効果は低い」と指摘した。

